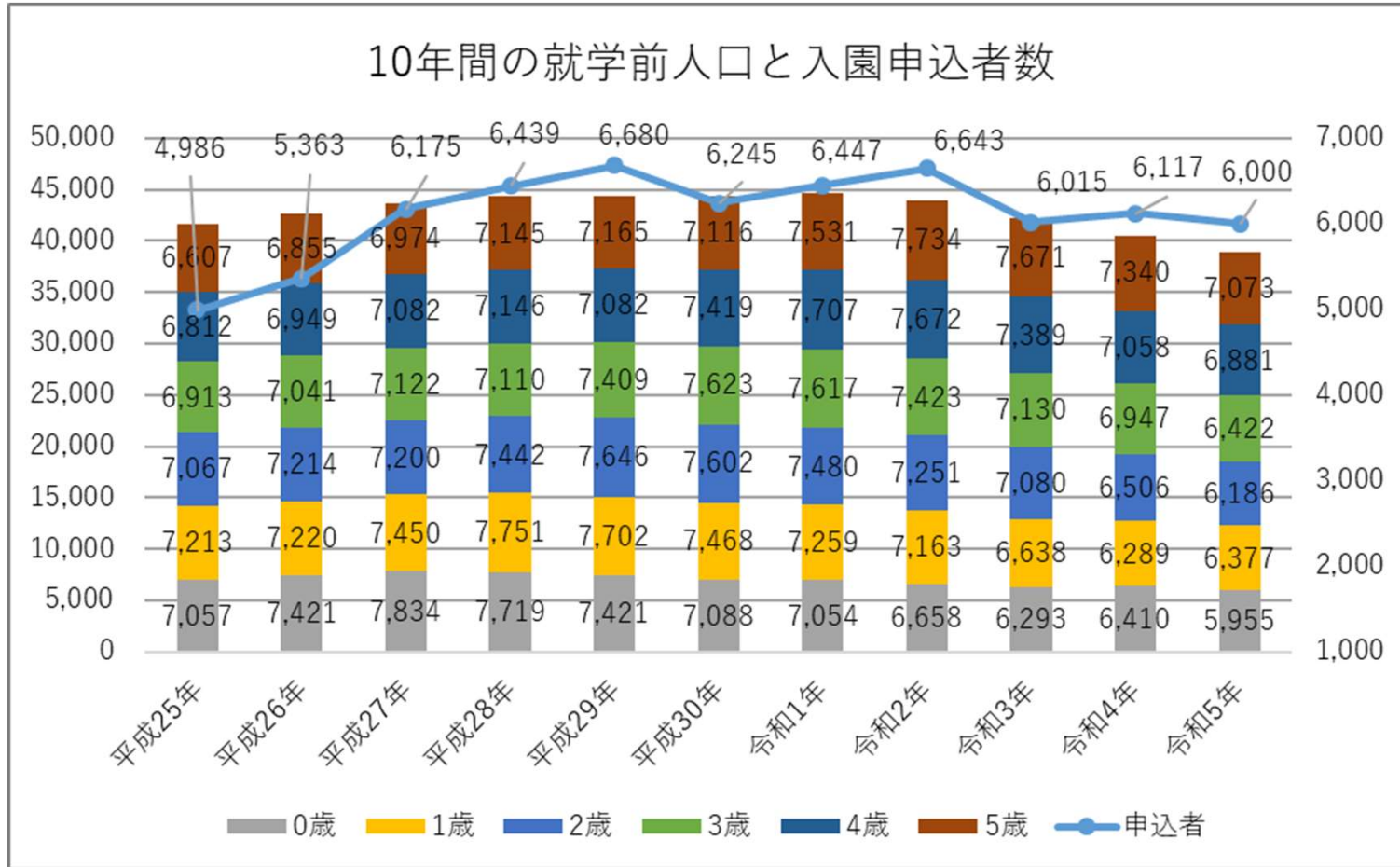


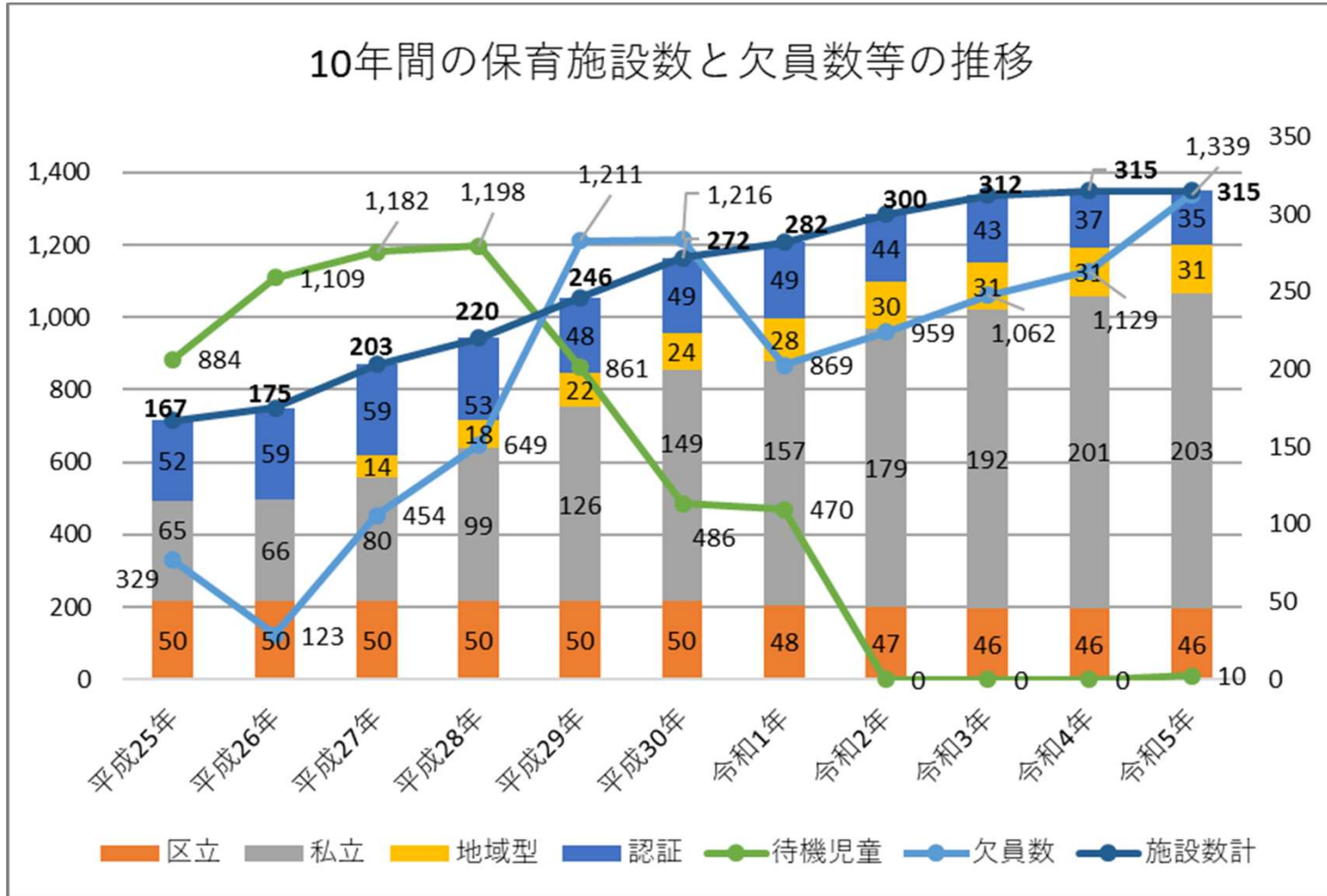
(1) 就学前人口の動向

平成28年まで区内の人口は毎年千人ずつ増加していたが、令和元年以降減少に転じている。現在は、毎年千人ずつ減少している。一方、入園申込者は毎年6千人前後となっており、人口減少と比較し高止まり傾向である。



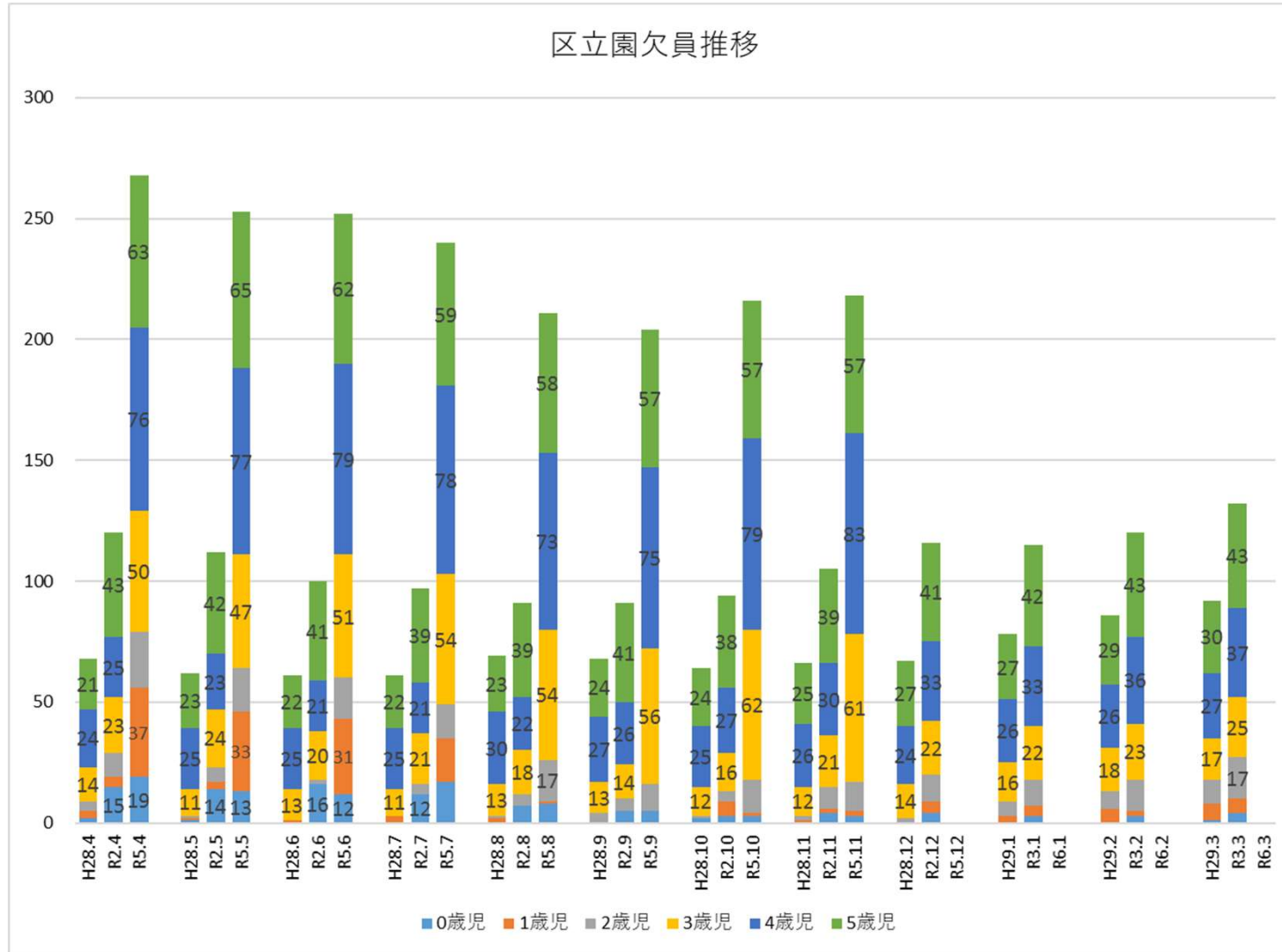
(2) 保育施設数と欠員の状況

区内保育施設は、平成25年度には私立区立で115であった施設数が、10年後の令和5年度には249となった。私立園は65園から3倍の203園となっている。施設数の増加に加え、(1)で示した就学前人口の減少により、保育所の欠員は増加し続けている。



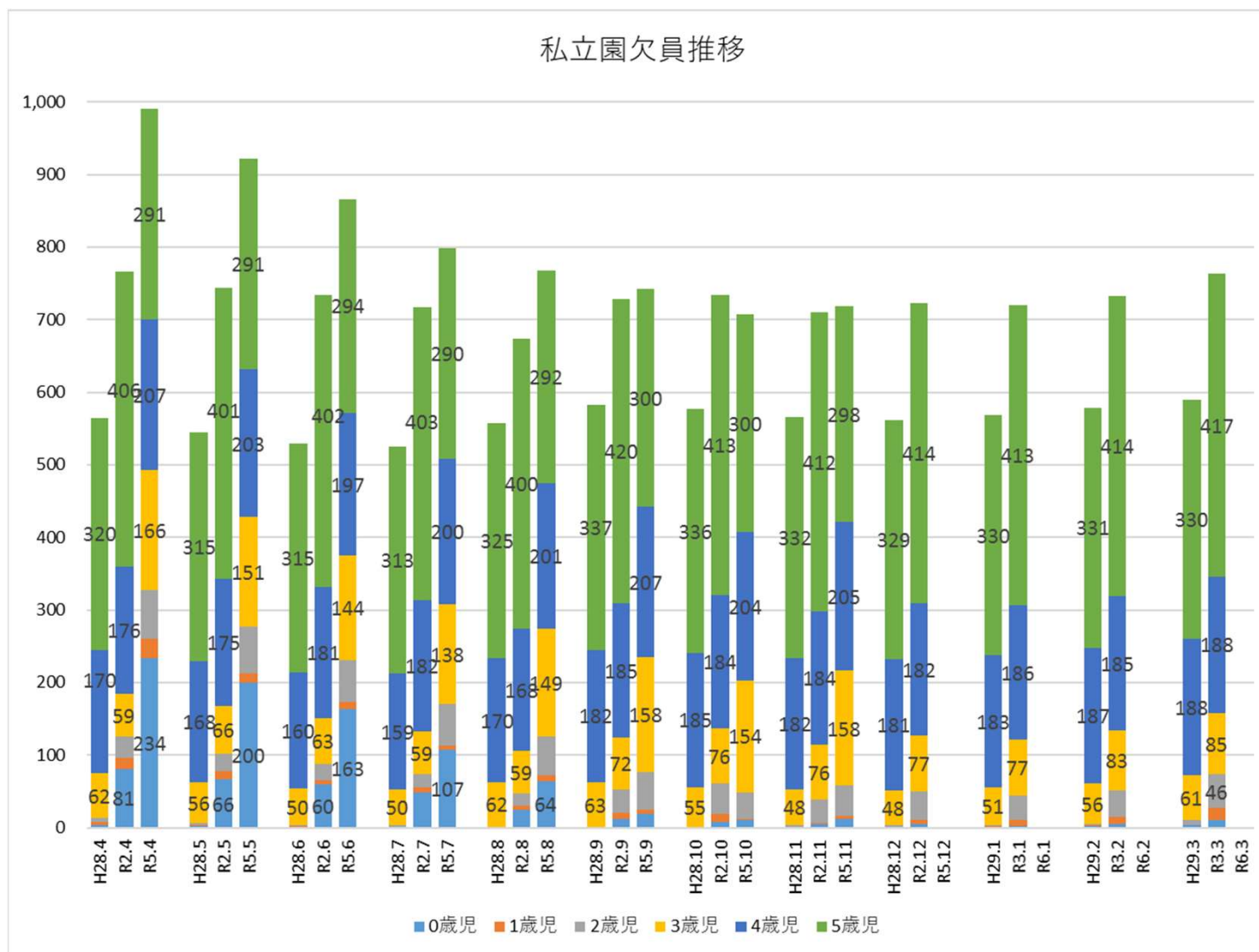
①区立保育園の欠員

区立園は令和5年に欠員が急増した。例年、年度後半に欠員が増加する傾向にある。



②私立保育園の欠員

多くの新規施設整備を実施していたため、4歳児と5歳児の欠員が多い。令和2年度以降、0歳児の欠員が急増した。



③地域型保育事業の欠員

平成27年度から開始した事業。開始直後は充足していたが、令和2年度以降、年度前半は0歳児が全く埋まらなくなっている。

